

令和2年9月市議会定例会一般質問発言通告書（発言順）

◎ 代表質問

いばら月曜会

14番 簀戸利昭

1. 平成30年7月豪雨災害の復旧状況と今後について

- 1) 平成30年7月豪雨災害で河川の氾濫、決壊、土砂災害等が発生し、市内に甚大な被害を与えましたが、その復旧状況について伺う。あわせて、市内の岡山県が所管の災害復旧状況についても伺う。
- 2) 浸水被害地域のうち、被害が大きかった地域に、このたびの補正予算で排水ポンプを設置・増設されるが、それぞれの地域の家屋等の被害状況について伺う。
- 3) 高屋川の氾濫地域の整備計画はどのようになっているか伺う。
- 4) 現在の防災マップにおいて、平成30年7月豪雨により実際に被害のあった場所が、土砂災害や浸水想定区域の危険個所になっていたのか伺う。

いばら市民クラブ

2番 多賀信祥

1. 令和元年度事業の取り組み実績と今後の方針について

本定例会で審議される令和元年度決算に係る事業について、以下の内容を伺う。

1) まちづくりについて

- ①協働のまちづくり「井原市パートナーシップ・プロジェクト事業」において「人口増を目指した事業」に対する各地区の補助額を拡充されたが、実

施された取り組み内容及び今後の方針について

②地域活性化補助金の活用事例及び今後の方針について

2) 子育てしやすい環境づくりによる移住の効果について

①平成31年4月1日から、子ども医療費無料化の対象を満18歳まで拡大したことによる医療費の影響額について

②子育て世代の移住者の推移について

3) 学校ICT環境整備事業について

①取り組み状況について

②今後の課題と方針について

4) 「ふるさと井原の未来を創るひとづくり事業」について

①取り組み状況について

②今後の課題と方針について

2. 新型コロナウイルス感染症による市民生活への対応や情報発信について

新型コロナウイルス感染症の影響により、全国的に多くの行事の開催を見合わせている状況であるが、本市における対応や情報の発信について伺う。

①住民自治組織との意見交換の場である自治連合会長会議、健康面での取り組みである「元気応援教室」など、開催ができない状況であるが、代替する取り組みの対応について

②市民に対しての新型コロナウイルス感染症拡大に関する、新しい生活様式の推進や注意喚起などの情報発信について

◎ 個人質問

10番 三宅文雄

1. 井原市経ヶ丸グリーンパークの管理・運営について

昭和50年代から多額の資金を投入し、建設された井原市経ヶ丸グリーンパークには、山頂付近に現在5箇所の施設が分散配置されており、指定管理者制度のもとで施設の管理・運営がなされている。その中でも、「井原市オートキャンプ場」や「子守唄の里わくわくドラゴンハウス」は、市内外から多くの来場者があり、本市の中心的な集客施設である。市街地にも近く、自然環境に恵まれた経ヶ丸一帯の観光の振興には、井原市経ヶ丸グリーンパークの整備こそが喫緊の課題であると考えます。

本市として施設の管理・運営の現状をどのように認識し、将来に向けてどのような対策を講じていこうと考えているのか伺う。

6番 西村慎次郎

1. 子どもの読書活動の推進状況について

「子どもの読書活動の推進に関する法律」が平成13年12月に施行され、その中で「すべての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において自主的に読書活動を行うことができるよう、環境の整備が推進されなければならない」との基本理念が示されました。

井原市においても、この法律に基づき、平成17年3月に「井原市子ども読書活動推進計画～いばらいきいき読書プラン～」の第1次計画が策定され、令和2年3月には今後5年間の第4次計画が策定され、子どもの読書活動の推進をしてきています。

そこで、子どもの読書活動推進事業の内容と実施状況について伺います。あわせて、子どもの読書活動を推進する上での課題と今後の取り組みについて伺います。

2. Web会議環境及びテレワーク環境の整備について

新型コロナウイルス感染症の世界的流行を受け、市民の生活様式も変わり、働き方も変わってきています。

そうした中において、感染症予防のために対面での会議を減らし、Web会議を活用されている自治体や一般企業も少なくありません。本市においても、一部でWeb会議の開催をされておられますが、今後、更なるWeb会議環境を整備してはと考えます。

また、在宅勤務や分散勤務等が行えるテレワーク環境を整備する自治体も出てきています。本市も働き方改革につながるテレワーク環境の整備を行ってはどうでしょうか。

以上、2点について本市の考えを伺います。

19番 佐藤 豊

1. 「持続可能な開発目標（SDGs）」への本市の対応について

1) 内閣府は、「持続可能な開発目標（SDGs）」の達成を目指し、環境にやさしいまちづくりに取り組む33都市34自治体を「SDGs未来都市」に追加認定しました。倉敷市も選定され、今後、備中地区の10市町でつくる「高梁川流域連携中枢都市圏」を基盤として、自然との共存や人口減少、福祉の充実など将来に向けた課題解決に向け、人材育成や災害に強いまちづくりに取り組むことを目指しています。本市としても高梁川流域連携中枢都市圏の1市として、今後、「SDGs未来都市」の推進にどのように取り組むのか伺います。

2) 愛媛県新居浜市では全小学校5・6年生に「持続可能な開発目標（SDGs）」をわかりやすくまとめた小冊子「新居浜版SDGs」を配布し、自分たちに今、何ができるのか考える機会を設けているとのことであります。本市としても持続可能な未来を育む世代への教材としての作成推進を図るべきと考えますが、作成の有無について伺います。

2. 美星町星空写真の市庁舎での展示について

なだらかな吉備高原に位置する美星町は気流が安定していることから、夜空の星の輝きが美しく、多くの天文ファンを魅了しています。また、その星空環境を維持するため日本初の光害防止条例の制定や、現在は、星空に優しいIDA認証照明器具の設置にも取り組まれ、星空環境の維持に努められています。さらには、「国際ダークスカイ協会」に「星空保護区」の認定申請を準備中と聞きます。

美星町観光協会では、これまで「美星の四季写真コンテスト」を開催し、美星町の魅力発信に努められている現状の中、星の写真は人の心に様々な思いを想起させると考えます。そこで、美星町の星空に触れる写真を庁舎内に展示して、市民に紹介する取り組みはできないか伺います。

3. 地域未来構想20オープンラボについて

国では、新型コロナウイルス感染症の収束が見えない状況の中、「新しい生活様式」の実現に向け「新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金」を活用し、今後、自治体に取り組むことが期待される教育・医療・地域交通体系・3密対策・行政のICT化・さらには観光や地域づくり等20の政策分野を「地域未来構想20オープンラボ」として開設しました。

各自治体では、取り組みたい分野に申請し、分野ごとの専門家や関連省庁と連携し、実現に向けて臨時交付金を活用しながら取り組むこととなります。

本市としてもこの取り組みに申し込みをされていると聞きましたが、具体的にどのような政策分野で取り組もうとされているのか伺います。

12番 藤原浩司

1. 新型コロナウイルス感染症により全国の経済が低迷する中、井原市の物品・役務業務の入札及び見積もり合わせ等の状況について

現在の市内及び市外業者における物品・役務業務の入札及び見積もり合わせ等の状況について伺う。

2. 井原市障害者福祉計画・井原市障害児福祉計画（第2期）・井原市障害福祉計画（第6期）の策定について

8月28日に開催された井原市障害者施策推進協議会の中で、アンケート結果が示されましたが、その結果から見えてきた障害者施策で本当に必要なことは何か。また障害者の自立・就労支援について伺う。

3. 井原市公共交通について

①路線バス事業者への補助金、あいあいバスに対する運行補助金及び委託料、また、あいあいバス11ルート中の1ヶ月分のルート別運行距離について伺う。さらに、あいあいバス運行の基本的な主旨を伺う。

②8月21日の井原市公共交通会議（第2回）において、新たな公共交通計画の策定方針について協議され、路線バスの縮小、一部路線のあいあいバス廃止という考えが示されました。このことは、新聞報道でもありましたが、詳細について伺う。

③福祉有償運送を活用し予約型乗合タクシーと連携した地域の生活交通の確保について、井原市に福祉有償・無償運送事業者は何社あるのか。また、予約型乗合タクシー事業者への委託料はいくらか伺う。

④市民が路線バス、あいあいバス、予約型乗合タクシーを使わない原因をどのように把握されているのか伺う。

1番 妹尾文彦

1. 新型コロナウイルス感染が学校で発生した場合の対応について

連日、新型コロナウイルスの新規感染者が多く確認される状態が続いております。今後、市内でも新型コロナウイルスの感染が発生する可能性も高くなっていると考えます。

そうした中、夏休みが終わり2学期の授業が始まり、学校で新型コロナウイ

ルス感染が発生することも、十分考えられます。

そこで、今後、市内の学校において新型コロナウイルスの感染が発生した場合、どのような対応をとるのか以下の2点について伺います。

①児童・生徒が感染した場合

②教員など職員が感染した場合

2. 「#ミラサポチケット」プロジェクトについて

先日、8月20日に販売終了となった「#ミラサポチケット」ですが、目標額の2,000万円に対し、目標額を大きく超える7,200万円となりました。

そこで、以下の点について伺います。

①購入者へのチケットはどのように配布されるのか、また、各商店への支払いの時期はどうなるのか。

②購入実績が多い業種はどの業種であったか。また一方で、購入実績の少なかった業種に対して、今後、何らかの手だてを行う考えはあるか。

3. 芳井・美星地区における井原あいあいバスから予約型乗合タクシーへの変更について

先日の公共交通会議で、芳井・美星地区の井原あいあいバスを予約型乗合タクシーに変更する案が、新たな公共交通計画の方針の中で、執行部から提示されました。

わたしも以前から、バスの利用客が少ない地域に対して予約型乗合タクシーの活用は有効な手段ではないかと考えております。

そこで、このたびの変更について伺います。

①変更を考えた経緯について

②今回示された具体的な内容について

③変更案に変更した場合のメリット・デメリットについて

1. コロナ禍における井原市民病院の現状とこれからの対応について

今年の1月頃から始まったコロナ禍の中、井原市民病院の対応について市民が関心を寄せている。市民病院が取られた新型コロナウイルス感染症対策について、以下6点伺います。

①入院患者、外来患者に対する対応について

②入院患者への面会時の対応について

③医療従事者の感染防止対応について

④PCR検査を受けるまでの流れについて

⑤PCR検査の実施状況について

⑥今年になってから現在までの財政状態について

1. 井原市地域防災計画の地震災害対策について

井原市地域防災計画の地震災害対策編は、総数200ページにわたる詳細な計画で、高く評価できる計画であります。しかし、あくまでも想定上での予防や応急対策の計画であり、もっと実践に即した計画が必要であると考えます。

そこで、地震が発生し、公共施設において、窓ガラスの破損や非構造部材が倒壊した場合の災害対策として、特に、市役所、市民病院、幼稚園、小・中学校、市立高校、市民会館などでの避難対策や救助対策について伺います。

1. 新型コロナウイルス感染症が本市に与えた経済的影響と今後の対応について

1) 本市経済への影響と財政見通しについて次の3点伺う。

①新型コロナウイルス感染症によって本市の景気動向や経済活動はどのような影響を被ったと受けとめているのか本年8月時点での認識を伺う。

②新型コロナウイルス感染症による本市の税収への影響はどのように予想しているのか伺う。

③新型コロナウイルス感染症による影響は長期化する可能性が高い。今後の財政見通しに対する見解について伺う。

2) 本市の大型事業の実施見込みについて2点伺う。

①新型コロナウイルス感染症によって経済の低迷、景気の落ち込みが著しいが、本市で進めている稲倉産業団地開発事業、新町商店街再興事業及び田中美術館新築事業等への計画に影響を及ぼさないか、事業実施財源への影響を示しながら認識を伺う。

②新型コロナウイルス感染症がおさまらない現下において、これらの事業を継承していくことの必要性と効果について改めて見解を伺う。

3) 新型コロナウイルス感染症収束後の取り組みについて2点伺う。

①新型コロナウイルス感染症の拡大は本市の経済にも甚大なダメージを与えており、本市独自の経済政策を求める声も多いと受け止めている。収束後の経済活性化策について、具体例を示しながら認識を伺う。

②新型コロナウイルス感染症の拡大により都市部から地方への移住に関心が高まっている。本市ではこのことに呼応した魅力発信をどのように行うのか見解を伺う。

1. 人口減少対策の現状と今後の方針について

大舌市長になられて2年になろうとしているが、本市の人口減少は著しいものがあり、歯どめ対策が急務であると考えている。

そうした中、平成28年には「元気いばらまち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定され、以下4つの基本目標を着実に取り組み、人口減少に歯どめをかけることある。計画期間が平成27年度から平成31年度までの5年間とあるがその成果と今後の方針について伺う。

①井原市において安定した雇用を創出することについて

②井原市への新しいひとの流れをつくることについて

③若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえることについて

④時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携することについて